

# 囲碁入門講座通信 令和2年 第7号



報告:有楽斎

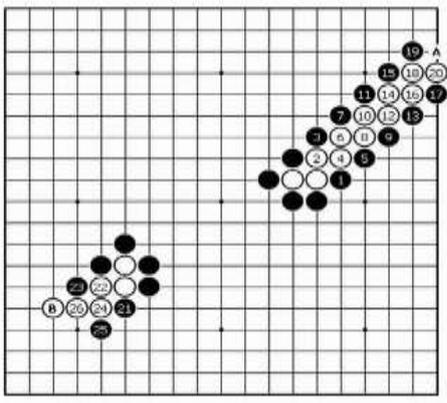
毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの蜜」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用の練習問題を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

**シチョウ** 少し碁らしくなる石の取り方。超初心者の段階では、どれだけ取れる石を取る力をつけるかが上達の鍵を握ります。ここでは最初の手筋らしき技、シチョウについて説明します。図を眺めるだけではわかりづらいという方は、実際に碁盤に並べてみてください。はじめのうちは、図の通り石を並べるにも時間がかかるものですが、棋力が上がるにつれてすらすらと並べられるようになります。

### シチョウ知らずの碁打ちかな

入門してから初めてシチョウを覚えると、ちょっと一ランク上がったなという気分になりますが、実戦でシチョウがわかるのはまだまだ先のこともかもしれません。なにしろ、初段近くになっても、シチョウで取れるかどうか悩まされるのですから。



**右上(シチョウ)** 中央の白2子に黒1とアタリをかけた。白2と逃げれば、今度は反対側から黒3のアタリ。このように白が逃げるたびにアタリ、アタリを繰り返し、黒19まで行ったところで行き止まりです。白20には黒Aで白石12個が取れるのはいうまでもありません。

実際は、黒1と打たれたときに白20までとなることを予測し、白は2と逃げません。一つ逃げるたびに大損するからです。実戦で図の白のような形になったときは、くれぐれも逃げないように。

**左下(シチョウアタリ)** 左下は同じシチョウでも少し様相が違います。白石Bが行く先に待ち構えているからです。同じように黒21からアタリで追って行っても、白26までとなつて、白の5子は白石Bとつながってしまいました。この瞬間、白のダメの数は4つになって、もはやアタリをかけることもできません。それどころか黒の石は断点だらけで、バラバラ。收拾がつかえません。シチョウで取れないのに追うのは大悪手なのです。

白Bのようにシチョウで取られるのを防ぐ石を、シチョウアタリといいます。

なお、シチョウは手筋というほどのものではありません。やはり囲碁川柳(?)に、「**アタリ、アタリのヘボ碁かな**」という句があります。取れないのにアタリをかけるのは俗筋、もっとひどい言いかたをすればヘボ筋、イモ筋です。シチョウは「アタリ、アタリ」でよい、数少ない例外でした。